

## 土木工学・建築学委員会インフラ高度化分科会（第25期・第7回）議事録

日時：令和4年3月8日（火）15:00～17:00

会場：オンライン Zoom

出席者/以下敬称略：

小林潔司，天野玲子，竹脇出，花木啓祐，那須清吾，小峯秀雄，小松利光，多々納裕一，安福規之，小野潔，高橋良和，西嶋一欽

配布資料：

資料1 第6回インフラ高度化議事録案

資料3-1 WG 長会議 議事 メモ（案）

資料3-2 インフラ高度化分科会公開シンポジウム主催提案書

資料4 IRDR 分科会「提言」骨子案

### 1. 前回議事要旨の確認

- ・ 高橋委員より第6回分科会議事録の内容が説明され，確認された。
- ・ 出席者に天野委員が抜けているので，議事録案を修正する。
- ・ 議事録案の確認後，学術シンポジウムで対象とする「インフラ」について議論された。

主な議論は以下の通り。

- 対象はいわゆる国交省が管轄しているインフラに限定されるのか？
- 必ずしもそうではないが，結果的にそのようになっているように見える。国交省が管轄しているインフラに限定せずに広く議論したい。
- 税金が投入されているかどうか，民間資本かどうかによる分類もある。ただし，鉄道のように上下分離されているものや，電力のように民間ではあるが公共性の高い資本もある。一概に分類するのは難しい。
- 議論は幅広く行うべきであるが，学術シンポジウムでどのようなインフラを対象とするのかについて，分科会メンバーで事前に理解を共通にし，あらかじめ明示しておくのがよい。

### 2. WG 長会議報告

- ・ 小野委員より，令和4年2月7日に開催したWG長会議の内容について報告があった。

主な報告は以下の通り。

- シンポジウムのプログラム構成として，前段で全体を俯瞰する話題を提供し，その後各WGの議論に関する話題を提供するという流れにしてはどうか。
- 前回の分科会で紹介された玉越先生の講演のなかで，計画の分野のサービスレベ

ルと構造分野の性能レベルが結びついていないという指摘があった。このことがアウトプットにでてくるようなシンポジウムとしてはどうか。

- シンポジウムのタイトル案として、「Trans-systems governance of Infrastructure」, 「越境するインフラガバナンス」を, サブタイトル案として「性能とサービスをつなぐ」を提案することとした。
- 全体を俯瞰する話題を提供する講演者案として, 小林委員長, 小池委員長, 玉越先生の名前が挙がった。
- ・ 上記報告に対して, タイトルが示す具体的な内容を表すポンチ絵があるとよいという意見があった。シンポジウムのポスター製作の際のデザインにも関わることなので検討する。
- ・ 多々納委員より, IRDR 分科会で検討中の「提言」について紹介があった。

### 3. 各 WG からの報告

- ・ 各 WG 長からそれぞれの WG の活動について, シンポジウムの内容について議論しているとの報告があった。また, WG 1 (那須委員) からは報告書を作成しているところであると報告があった。

### 4. 学術シンポジウム開催について

- ・ 高橋委員より, 学術シンポジウムのプログラム案について説明があり, 同案について議論を行った。主な議論は以下の通り。
  - 前半は基調講演的な位置付け。休憩を挟んだ後半は総合討論がメインと位置づけ, 総合討論に話題提供的な講演を入れる。
  - 登壇者および前半の登壇者の発表順序は案の通りでよい。
  - 「越境する」が意味するところについて議論があり, 小林委員長より「ガバナンスされる対象を広げていく」という意味合いであり, 分科会あるいはシンポジウムでは, どうすれば広がるかという戦略を考えたいという話があった。
  - 自動運転が実現した社会では, 道路だけあっても意味がない。センサーを駆動させるための電力も必要。災害時にはもの(道路など)だけがあっても機能しないので, エネルギーに関するシステムを併せて議論する必要がある。そういう意味で, いわゆる国交省が管轄しているインフラに限定されずに幅広く議論することが重要である。
  - 学術シンポジウムのタイトルに関して, 「越境する」だと越境する側とされる側が存在するというニュアンスが生じるので, 「越境しあう」にしてはどうか。

### 5. 今後の予定

- ・ 第 8 回分科会は令和 4 年 5 月 26 日 (木) 13 時~15 時に開催する。

- ・第9回分科会は、学術シンポジウム開催時間の前に開催する。
- ・第9回分科会および学術シンポジウムの開催候補日時は、8月10日（水）お昼～午後にかけてとする。また、8月2日（火）を予備日とする。
- ・必要に応じて、7月頃にシンポジウム関係者のみで打ち合わせを行う。